

## ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業



### 取組みの経緯・内容

#### ～はじめに～

#### 「ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業」とは？

様々な理由により、ひきこもりの状態にある方等の社会参加や就労へのきっかけとするため、県内の社会福祉法人施設・事業所が対象となる方の状況に合わせた体験等を実施しているものです。これは生計困難者等に対する相談支援事業「えんくり事業」で令和5年度から取組を開始しました。

いくらの郷も本事業の受け入れ先の一つとして体験を実施しています。今回は相談員の仙田さんにお話を伺いました。

平成30年5月に地域共生社会実現拠点施設として開所し、学校や社会にうまくなじめていないと感じていたり、社会への第一歩を踏み出せずにいる若者たちの社会参加・社会復帰を支援してきました。しかし、開設当初は一日につき2,000円の体験料を要することが影響したのか、体験者は多く集まりませんでした。生活に困窮している利用者さんも多い中、就職後払いで体験をされる方もいらっしゃる心苦しくもありました。

このような中、令和5年に就労体験事業が始まり、いくらの郷でも8月から受け入れを開始しました。体験に関する経費の補助が出たことで、気になる方に「一度施設での体験に来てみてはどうですか？」と声をかけやすくなりました。就労準備事業所や行政、生活困窮者支援の就労支援機関からの相談をきっかけに体験につながることも多くなりました。この事業ができて、制度等に捉われず支援の幅が広がっています。

利用者さんは、その日の心身の状態によって施設に来られない日もあるので、綿密な体験の計画等は立てず、ご本人の調子や天候によってできる体験を提供しています。一番は「一人ひとりにあった体験」を心がけています。また、いくらの郷を初めて利用する方には、どのような体験をしたいか丁寧に聞き取りをし、利用者さんに寄り添った支援を行っています。

どのような体験をしたいか決まらない方には、ヨガや座禅、農林業、編み物、eスポーツ、ハーバリウム制作、他の施設や地域行事への参加、食品加工等の体験メニューの中から興味のあるものに参加いただいています。

#### ○活動データ

- ・実施頻度：随時
- ・取組みに関わる人員：職員、地域の方々

## 取組みの成果

令和6年5月時点で本事業を利用した方は7名で、そのうち1名は体験先での就職が決まりました。また、県外へ進学した方もあり、本事業での体験を含めて2年半の施設での体験が進学へとつながった例もあります。

就職や卒業後も関わりを継続し、それっきりの支援にならないようフォローも行っています。また、1日の体験につき利用者さんへ1,000円の応援金がでるのも、やる気の向上につながり、就労等次のステップに進みやすくなっています。

## 活動者コメント

ひきこもりの状態にある方等への支援に「正解はない」と思っています。支援側にできることはゴールを決めるのではなく、本人の前向きな気持ちが生まれるのを手伝うことです。これを支援したらいいという明確な方法はなく、「利用者さんに合わせた様々なアプローチで寄り添っていく」ことが何より大切ではないでしょうか。

本人の意思でここに来てもらえるよう、支援側もゆったりとした心を持ち、私自身も来たいと思える場所づくりを心がけています。

若者支援という事で色々な取り組みを行っていますが、これまで施設で出会った若者たちはちょっと気弱ですが、素直で正直な若者という印象です。コミュニケーションが苦手で人付き合いが上手くいかずに悩んでいる若者もいます。また、不登校を経験したり、いじめにあったり、社会に出てから仕事が上手くいかず、そのままひきこもってしまったという若者も多いです。

ひきこもりの方は全国で推計140万人以上もいると言われていますが、一人ひとり個性を持ち、事情も違うので、そのサポートは暗闇を手探りで彼方の明かりを目指して行くような活動です。

そのような中でも確かな事は、「実際に体を動かして何かを成し遂げる事で自信を積み重ねていくこと」です。そのプロセスでどんどん元気になって行き、自分から色々な話をしてくれるようになり、生きる意欲が湧いてくるようです。自然の中での体験を通して他の利用者の方や地域の住民さんと交流を深めることができています。

一方で、近年ひきこもりの方への支援は増えつつありますが、まだまだ普遍的ではありません。当事者たちは引け目を感じて隠すことも多いので、もっと理解のある世の中になればいいなと思います。

## 利用者の声

「通う前は人との間に壁を作り、自分の可能性に限界を決めていました。チェーンソーを使って木を切ったり、草刈り機を使って草を刈ったり、初めての体験で好奇心が湧き上がって来るのを久しぶりに感じました。」

仙田さんは、「利用者さんにとって自分がひきこもっていたという過去は隠して忘れたいのかと思いきや、就職し、いくらの郷卒業後も遊びに来て近況報告をしてくれる方々もいます。体験中も卒業後も心落ち着く場所であり、いくらの郷があってよかったと思ってもらえる場になっていたら嬉しい」と語ります。

## ～おわりに～

仙田さんの一人ひとりに寄り添った関わりは、まさに利用者さんとの「価値観のチャンネル合わせ」を大切に取り組まれているように思いました。

社会福祉法人 **伯耆の国** **いくらの郷**

社会福祉法人伯耆の国

本部／鳥取県西伯郡南部町落合 6 4 6 番地

いくらの郷／鳥取県西伯郡南部町下中谷 1 5 2 8

電話番号／0 8 5 9 - 3 9 - 6 6 5 5

法人HP／<https://ikuranosato.jimdofree.com/>

他に実施している公益的取組み：

社会福祉の増進に資する人材育成・確保事業

